

# 石油市場の最新情勢

---

一般財団法人日本エネルギー経済研究所

化石エネルギー・国際協力ユニット 石油グループ

森川 哲男

# 需給バランスと価格

需給バランス



価格

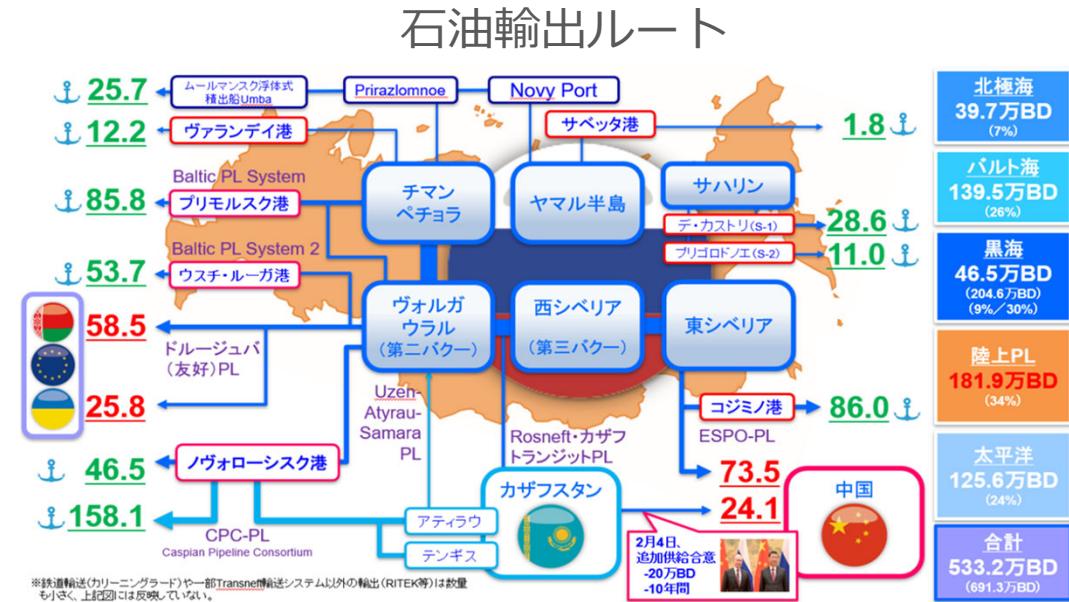


出所: IEA、CME、ICE、日本エネルギー経済研究所

- 2022年第2・3四半期は備蓄放出効果で供給超過に。但し、供給余力は限定的で、商業在庫も低水準で推移し、供給不足が意識されやすい状況が続く。
- ウクライナ危機を巡る地政学リスクがそのまま残るが、大規模供給支障・途絶は発生しない前提で、2022年後半のBrent価格は\$100 ( $\pm 20$ ) と予測。

# ロシアの石油生産・輸出

		mb/d	
		2022年 1-2月	2022年 4月
生産量		11.39	10.40
原油・コンデンセート	5.0	5.0	
石油製品	2.8	2.8	
合計	8.0	8.1	
輸出量	欧洲向け	4.0	3.4
	中国向け	1.7	1.7
	内数	0.1	0.8
	不明	1.0	1.4



出所: IEA、JOGMEC

- 4月時点の生産量は1-2月比約100万b/d (9%) 減。
- 4月時点の輸出量は維持しているものの、年後半にかけて減少見込み。インド等アジア向けや寄港先不明の輸出が増加。
- ロシア輸出量は西側制裁強度やアジア向け供給増程度が影響。西側向け輸出量を全て他市場で売りさばくのは困難。
- 2022年後半の生産量は300万b/d減と見込まれている。

# 西側諸国の対応

備蓄放出 (単位: mb)

石油関連制裁

国・地域	発表日		
	3月4日	4月1日	4月7日
米国	30.0	120.0	60.6
欧州	17.7		35.1
日本	7.5		15.0
他アジア・オセアニア	6.5		9.3
合計	61.7	120.0	120.0

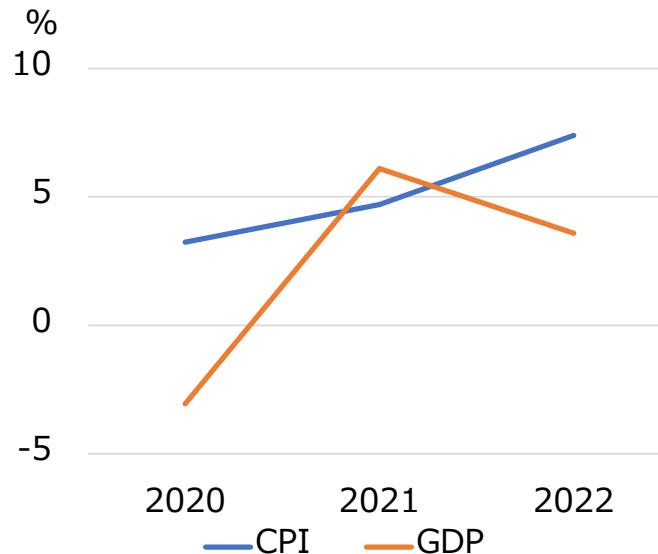
国・地域	内容	
	Swift排除	禁輸
米国・カナダ		実施
EU	大多数の銀行を排除も Gazprombankは依然除外?	協議中
英国		年末までに実施
日本		段階的実施

註：4月1日米DOE発表の米国放出量は1.8億バレルであるが、内0.6億バレルを4月7日発表のIEA分として放出  
出所: IEA、米エネルギー省

- ウクライナ侵攻を受けて、西側諸国は3億バレルの備蓄放出、ロシア産石油輸入削減・禁輸を実施。
- ロシア産石油依存が高い欧州での禁輸のハードルは高いが、実施時期や参加国は不透明ながらも禁輸実施が既定路線。
- 米欧石油メジャーはロシア事業撤退へ。

# 2022年の主要な不確実性

## マクロ経済



## 対ロシア石油関連制裁強度



## 中東でのセキュリティ悪化事象



出所: IMF、日本エネルギー経済研究所、資源エネルギー庁

- 米国やOPEC+の増産程度は極めて重要であるが、2022年のトレンドに関する不確実性は比較的低い（米国は対前年比100万b/d程度、OPEC+同200万b/d程度増産見込み）。
- 一方、マクロ経済、対ロシア制裁程度、他地政学リスクの不確実性は高い。
  - マクロ経済: 中国ロックダウン頻発・インフレ加速 or 中国ロックダウン終了・インフレピークアウト
  - 対ロシア制裁: 戦況激化で二次制裁発動 or 停戦・制裁緩和
  - 地政学リスク: 中東での供給途絶